芸西地区から こんにちは
今月の気になる人

室戸支所管内より

土佐九斤のピヨちゃん

ピヨちゃん（生後10日）
飼い主：中山 美和さん

生まれて10日目の土佐九斤（とさくきん）のヒヨコ、名前はみ～んな“ピヨちゃん”です。まだ小さくて外敵に狙われやすいので、毎日夕方に少しだけ庭をお散歩。5羽揃ってピヨピヨ歩き回る様が、とても愛らしいですね♪

土佐九斤は、夫・健さんの祖父が昔育てていたニワトリで、品評会で賞も受賞されていたそうです。土佐九斤と大シャモの交配種へ、白色プリマスロックを掛け合わせたものが「土佐はちきん地鶏」になります。「祖父が育てていた土佐固有のニワトリを、これからも増やしていきたい」と美和さんら家族は大切に育てています。卵をたくさん生みだした時期に孵卵へ挑戦しますが、難しく失敗も多いそう。今は親鶏15羽、ピヨちゃんの兄姉4羽、ピヨちゃん5羽のにぎやかな大家族です。

アンパンマンがお気に入り

中島 好梨（ここな）ちゃん（2）

家の中でも走り回っている、活発な好梨ちゃん。家の前に公園があり、大好きな滑り台でずっと遊んでいます。父・一磨さんがコーチをしている小中学生の陸上を見て、好梨ちゃんも「よ～い、ドン！」と言いながら走っているそうです。

両親と祖父母はナスを栽培しており、「パパのところに行きたい！」とよくハウスにも遊びにいきます。野菜は苦手だけどナスは食べられます。フルーツも好きで、ご飯のお皿にフルーツがのっていないと怒るそうです。

今はアンパンマンがお気に入りで、お出かけにはアンパンマンのリュックと帽子がかかせません。今日もアンパンマンと一緒に、ハウスまで遊びに行くよ～♪

羽根事務所管内より

田野支所管内より

私達と一緒に、楽しく踊りませんか？

岩崎 暢洋さん　（65）
ゆきみさん（63）

今にも踊り出しそうな華やかな衣装と笑顔で出迎えてくれた、岩崎夫妻。文具店を営む傍ら、地域の仲間たちとフラダンスやディスコダンスを踊っています。暢洋さんが会長、ゆきみさんが代表を務める、田野町のダンスグループ「Smile Club」。“人生健康で、いきいきと楽しく”をモットーに、上手に踊ることよりも楽しむことが第一！ 10代～80代の15人程が、ダンスを通じて交流を深めています。

「たくさんの仲間と心から楽しむ時間が本当の贅沢！心と体のリフレッシュのため、多くの人に参加してほしい」とご夫妻。フラダンスはゆきみさんが講師を務め毎週土曜日に、ディスコダンスは先生を呼んで毎月第2、4日曜日に田野町ふれあいセンターで開催。参加は基本無料です。私も一緒に楽しみたい！ という方は、イワサキ文具（0887−38−2806）までご連絡お待ちしています♪

芸西支所管内より

手間暇かけて、収量を上げたい

松本 司さん（56）

昨年、父・晴之さんからナス20アールのハウスを受け継ぎ、2作目を迎える司さん。子どもの頃から農業は身近にあり、勤めながらもフルティカトマトや文旦など様々な農産物を栽培していました。「松ちゃんのこだわり栽培」と書いて、とさのさとへも出荷。“ハチによる自然受粉”“お子様にも安心”など、こだわりを明記した商品とその味にファンも多いようです。

長年、旅行会社や観光業に就き、オランダへの農業視察研修や高知県観光体験ツアーなどを企画。「お客さんに何が喜ばれるのか、そう考えることは農業にもつながっている」と司さん。ナスでも、高品質・収量アップが目標です。バレーボールのプロチームに所属する娘・愛希穂さんも、司さんの野菜の大ファン。届けた野菜を使った料理写真が送られてくるのが、目下の楽しみです。

安芸地区版

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！

定植作業に励む地域の生産者や役職員

1 安芸営農経済センター

アグリード土佐あき５作目へ １割増収、農薬２割減目指す

㈱アグリード土佐あきは8月23日、5年目のナスの定植をしました。今作は、33・6アールの研修ハウスで前年度1割増収の年間74トンと農薬2割削減を目指します。

２０１９年度は2月に統合環境制御システムを導入。離れた場所からのモニタリングや遠隔操作による作業の効率化などオペレーションの向上で、労力軽減につなげました。有光大専務は「いつでも遠隔でハウス内の管理ができるので、安心感もある。若手や栽培面積が広い生産者など、新しい技術に興味がある人にすすめていきたい」と話しました。新たに研修生も受け入れ、第3期生となる細川真由さんは「ナス農家の父の力になれるよう、しっかり基礎から学んでいきたい」と意気込みます。今年は第1期生が独立就農し、担い手の育成が前進しています。

ＪＡの安岡憲保常務は「生産者との共同作業等を通じて、より地域に根付いた研修ハウスにしていきたい。最先端技術にも取り組み、担い手の育成と産地の維持・発展を目指す」と話しました。

摘果や収穫作業を想定したロボットアーム

2 北川支所

北川村ユズ園にスマート農機 全国の中山間地のモデルに

北川村スマート農業実証コンソーシアムは7月31日、土佐北川農園へスマート農業機器の搬入、設置を行いました。2年間の技術開発・実証を通して、労働生産性の向上と高品質果実の供給不足の解消を目指します。

農水省の「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の一環。労働時間・労働費の25％削減、苗木が育つ時間短縮、品質向上による所得増などを目標に掲げています。労働生産性の向上には、完全自動ドローンによる薬剤散布や測量、遠隔操作ができるロボットアームによる摘果・収穫、運搬用台車による薬散などの効果を実証。供給不足の解消には、自動水循環栽培システムによる効率的な苗木促成栽培技術などを実証。ユズ苗木の生育を早め、新規就農者のできるだけ早い農業生産につなげます。秋には自動選果機も導入し、省力化や青果出荷率向上を図ります。

野見山誉副村長は「実証を通して、全国の中山間地のモデルとなる技術体系と成果をつくっていきたい」と強調します。

3 地区本部

夏満喫！親子ちゃぐりんフェスタ

野菜スタンプでうちわを作る児童ら

8月22日、「親子ちゃぐりんフェスタ」を開き、児童7人と保護者が参加しました。

児童は、ピーマンやレンコンなどの野菜スタンプで、うちわ作りに挑戦。可愛い作品が完成しました。農家の西岡秀輝さんや安芸農業振興センターの協力のもと、お米についても学習。足踏み脱穀機を使って、昔ながらの脱穀も体験しました。川遊びや宝さがしゲームも満喫し、楽しい夏の思い出ができました。

次回は10月31日、土佐あかうしの学習を予定。

4 あき支所

地域の特産品で料理作り

委員会メンバーに教わりながら、なすピザを作る生徒

園芸女性部と安芸市施設園芸品消費拡大委員会は8月19日、20日の2日間、県立安芸中学校のサマーセミナーで講師を務めました。1年生58人が、ナスとピーマンを使った料理作りに挑戦しました。

生徒は、生産者から野菜の切り方や火加減、盛り付けなどを教わりながら「なすピザ」と「ピーマンの豚肉巻き」を調理。生徒は「簡単にできたので家でも作ってみたい」「普段あまり料理はしないが、やってみたくなった」と料理作りに関心を高めました。

5 地区本部

農家が動画で青ユズレシピ紹介

「青ユズのレシピを紹介します」と元気にＰＲするゆずマダム

ゆず振興対策協議会などは8月28日、「鶏の青ゆずマリネ焼き」のレシピ動画を公開。ユーチューブやＪＡ高知県ホームページで発信し、新型コロナ感染拡大の影響を受けた青ユズのＰＲを強化しました。

動画では、ユズ農家が「ゆずマダム」に扮して登場。「青ゆずうどん」や「鯛のカルパッチョ青ゆず風味」など、青ユズの輪切りや皮をのせるだけの簡単なメニューも紹介。農家の有澤節子さんは、「動画を見て、家庭で気軽に青ユズを楽しんでほしい」と期待を込めます。

6 地区本部

「なすと豚肉のライスバーガー」販売

「地元のものを詰め込んだ」とPRする小松店長

道の駅「大山」は8月14日、「なすと豚肉のライスバーガー」の販売を開始しました。

県産米を使ったライスバーガーに、素揚げした安芸市産のナスと炒めた県産豚肉を挟みました。豚肉は、女性部の安芸支部東川地区が作る焼肉のたれ「お山の大将」で炒めています。甘みを引き出したナスと濃厚な味付けの豚肉で、食べ応えのある一品に仕上がりました。

小松智恵店長は「テイクアウトもできるので、多くの人に食べてほしい」とＰＲします。

役立つ！ 得する！ 情報

えいのう～

栽培管理

ナス

今月は病害初発の時期なので、もう一度、栽培管理をしっかり見直して「高品質・高収量」を目指しましょう。

灌水・追肥

摘芯までは成長（葉面積の増加）や着果（花）数の増加に合わせて灌水量と追肥量を増やしましょう（ハウス野菜栽培管理こよみ資料14参照）。灌水ムラは根腐れによる病害の原因となるので、均一な灌水ができているか確認・調整しましょう。1ヶ月あたりの施肥量は、10アール当たりチッソ成分で6kgを目安とします。

整枝・誘引・光環境

主枝の摘芯は、畝上1.2m（9～10節）前後の高さで行いましょう。徒長して節間が伸びている場合は、一度つり糸を緩めて樹勢を落ち着かせてから摘芯しましょう。第1分枝下の葉は、第1主枝の成長点が8節目になった頃から2～3回に分けて摘葉します。本葉は黄化した葉や病害葉だけを除去します。赤果・青べた果の発生防止のため、二重内張りはあけるとともに側枝は収穫時に1芽切り戻しにします。また、各主枝から出る下位1～2段の側枝は、1果収穫後に元まで切り戻して、下位部の繁茂による品質の低下（赤果、青べた果）や病害虫の発生を防ぎます。

病害虫防除

農薬の使用方法を厳守して、病害虫の適期防除を行いましょう。

安芸営農経済センター
営農指導課
芸東ブロック
田中　瑞穂

促成なす主要病害防除体系

月	旬	使用農薬	対象病害 灰	うど	すす	黒枯	立枯	防除の基本的考え
10	上旬	★セイビアーフロアブル20	○				○	・フザリウム立枯病の対策として、栽培初期にスクレアフロアブルとセイビアーフロアブル20で予防に努める（この時期の予防対策が極めて重要と考え、通常は行わない同一薬剤の連用をあえて推奨する。※セイビアーについては耐性菌出現リスクは極めて低い）。 ・すす斑病が見られた際にはラリー水和剤またはトリフミン水和剤を散布する。 ・うどんこ病の早期発見が見られる場合はプロパティフロアブル、ショウチノスケフロアブルまたはパンチョTF顆粒水和剤を散布する。 ・すすかび病は発生後の防除が難しい上、落葉による樹勢の低下で減収となるので、10月以降月2回程度の予防散布を行う。 ・同剤は各種病害の予防に、適宜使用する。
	中旬	★セイビアーフロアブル20	○				○	
	下旬	★ファンタジスタ顆粒水和剤	○		○	○		
11	上旬	★スクレアフロアブル					○	
	中旬	★ベルクートフロアブル	○	○	○	○		
	下旬	★ダコニール1000	○	○	○	○		

摘果・病害虫防除

カンキツ

温州みかんやユズでは収穫間近となりました。最後まで品質向上を目指し、最終の摘果や病害虫防除に努めましょう。

仕上げ摘果

収穫果実の外観や品質の向上を目的とします。樹冠上部は軸の太い果実を樹が暴れない程度に摘果します。小玉果と出荷に向かない果実を落としていくと効率的に作業ができます。

夏秋梢の管理

ポンカンや土佐文旦などでは、かいよう病の病斑のついた夏秋梢を除去しましょう。夏秋梢処理の方法としては、①垂直に立ち上がった強い枝は樹形を乱すので基部から切る。②斜め上や水平の夏秋梢を予備枝として利用する場合は、輪状芽（春枝と夏枝の境）を残して切る。③弱い夏秋梢は輪状芽の下の春枝まで戻って切る。④樹冠拡大を目指す場合は、芽の充実したところで切り返します。

礼肥の施用

礼肥は今年の樹勢回復、冬期の耐寒性及び翌春の新梢の発生と開花結実を促進し、隔年結果是正へのカギとなるので必ず施用しましょう。ユズでは10月下旬～11月上旬、ポンカンでは11月上旬～11月中旬までに栽培暦基準と樹勢に応じて施用量を調整してください。

病害虫防除

黒点病、ミカンハダニ、カメムシ類については発生に注意し、早めに薬剤散布を行いましょう。

防除例

適用病害虫	農薬名	使用倍数	収穫前日数	使用回数
黒点病	ナリアWDG	2000倍	14日前まで	3回以内
黒点病	ナティーボフロアブル	1500倍	前日まで	3回以内
ミカンハダニ	ダニコングフロアブル	4000倍	前日まで	1回
カメムシ類 アザミウマ類	テルスターフロアブル	3000～5000倍	前日まで	3回以内
カメムシ類 チャノキイロアザミウマ	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	3回以内

安芸営農経済センター
営農指導課
山影　学

振興センターだより

農福連携について

農福連携とは

農福連携は、農業サイドと福祉サイドが連携し、農業分野における障害者等の就労を促進する取り組みで、近年は国の推進もあり全国で取り組みが進んで来ています。

障害者の人数は年々増加しており、引きこもりなど生きづらさを抱えた人を加えるとその人数は図り知れません。一方農業に従事する生産者は年々減少しており、図のように安芸地区でも例外ではなく、就農人口、特に65歳未満の農業従事者の減少が著しく、今後更に労働力確保が難しくなると想像出来ます。

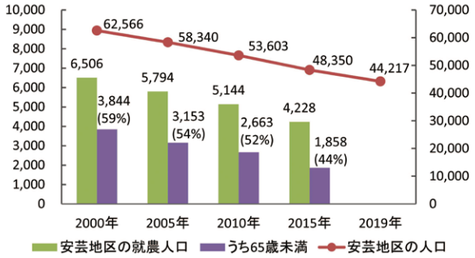

図　安芸地区の就農人口推移

このような状況の中、農業分野での就労は、障害者が自然とのふれあいによる精神的な安定と、自信や生きがいを持って社会参画を実現していくことに繋がります。一方、担い手不足や高齢化が進む農業にとっては、新たな労働力確保や産地の維持に繋がることから、農福連携は、双方にメリットがあります。

安芸地区での活動

安芸地区では、障害者や引きこもりの人たちの雇用就農支援として、平成30年度にJA高知県安芸地区、安芸市、県安芸福祉保健所、障害者就労・生活支援センター「ポラリス」、農業振興センターを構成員とする「安芸市農福連携研究会」を発足しました。

研究会では、毎月定例会を開催して活動立案や情報共有を図るとともに、シンポジウム・講演会の開催、農作業の体験会、農作業を説明するビデオ作成等、障害者等と農業のマッチング成功に向けた活動をしています。

また、令和元年からはJAに就労支援サポーターが配置され、障害者らと一緒に農作業を行い、アドバイスや相談に乗り、農家と雇用者との橋渡しをしています。

これらの活動を通し、現在60名以上の方がナスやピーマンの農家、出荷場等で働いています。日々仕事を覚え、楽しそうに取り組んでいる姿も見られます。

今後の課題

様々なメリットが期待できる農福連携ですが、課題もあります。その一つに、この取り組みが農家に十分浸透していないことがあげられます。JAの無料職業紹介所で障害者等とのマッチングも進めていますが、農家側からの受入れ表明が少ないのが実状です。

障害者だから出来ないと言う決めつけや、接し方が分からない、教え方が分からない、そもそも関心が無い、などが理由になっているようです。障害の状況等によって出来る作業が限られるのは事実ですが、工夫次第で十分な働き手として受け入れられている例もあります。

JAの無料職業紹介所では農業体験や見学等を行った後、一定の試用期間を経て雇用しており、サポーターや各支援者（団体）が当事者および受入れ農家を常にフォロー出来る体制となっています。

先ずは農家の皆様に関心を持って頂き、障害者等の雇用や長期の雇用の他に、短期での受入れなども検討に入れて頂ければと思います。

障害者と農家双方の利益と産地の維持発展に繋がるよう、関係機関がサポートしますので、農家の皆様の積極的な理解と協力をお願いします。

農福連携高知県サミットinあき（令和元年6月14日）

■安芸農業振興センター　0887-34-0138
猪野　亜矢

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

「農業の楽しさを発信していきたい」強い思いの青年、頼もしい限りです。全力応援です。
（あき北支所・70歳）

▼8月号の「安芸地区からこんにちは」に登場いただいた阿部さんは、今作から新たな挑戦に取り組みます。若手の思いを、地域で応援していきましょう！

おいしそうなスイーツを見て、思わずよだれが。全ては行けそうにありませんが、近い場所から行ってみたいです。
（あき北支所・64歳）

▼8月号のひんやりスイーツ特集は大人気でした！私のイチオシは、メリーガーデンさんの「マンゴーたっぷりパンケーキ」かな♪

いつもレシピを楽しみにしていますが、「彩りピーマンのガパオライス」は特に良かったです。見た目がすごくきれいで、エスニック風の味付けが暑くて食欲のない時にピッタリです。
（芸西支所・78歳）

▼豆板醤やナンプラーの香りが食欲をそそりますよね～。カラーピーマンも食卓を鮮やかに彩ってくれます。

猛暑の中、夏バテしないよう直販所の食材で体力を保っています。
（羽根事務所・48歳）

▼気を抜くと、倒れてしまいそうな暑さでしたね。地元の美味しい食材から、パワーをいただきましょう！

室戸出身ですが、「所さんお届けモノです」でぽたなすを初めて知りました。キラメッセ室戸でみつけて、すぐに購入。焼きナスにして食べたら、とろっとして本当においしかったです。
（室戸支所・57歳）

▼テレビで一気に知名度が上がったようです。ぽたなす特有のとろけるような食感が、私も大好きです♪

こうぐりのフェイスブックが始まったんですね。早速見たいと思います。
（芸西支所・21歳）

▼平日はほぼ毎日更新しているので、ぜひご覧ください！こんなの載せてほしいなど、ご意見もお待ちしています。

広報のつぶやき

今年の夏、あまりの暑さに人混みを避けて、県内の川へ遊びに行ってきました。仁淀ブルーを求めて、仁淀町の安居渓谷へ。滝など見所の多い渓谷ですが、仁淀ブルーを体感できる水晶淵に感動！川底まで透き通る青さは、見るだけでも暑さが和らぎました！

吉野川の支流、本山町の汗見川へも。こちらも透明度が高く、夢中で泳いでいたらこんがり焼けました（笑）。高知県は少し車を走らせると、川や海、山など大自然に出会えます。こんな時期だからこそ、自然に恵まれた環境に感謝です。
（竹村）

INFORMATION
お知らせ

直販所“とさのさと”へ出荷しませんか？

とさのさとへの出荷手続きは、各集荷場所で全て対応できます。不明点はお気軽にお問い合わせください。多様な生産者からの出荷をお待ちしています。

出品者の声　今まで地域での販売だけでしたが、より多くの方に買っていただけるので非常に嬉しく思っています。県外から来ていただいた方にも、高知県のナスを知ってもらえるきっかけになることを期待しています。
（ナス・北村直輝）

販売委託手数料
農産物　販売代金の18%
加工・民工芸品　販売代金の20%
集荷手数料　販売代金の3%
（例）集荷便を使って農産物を販売する場合　21%

集荷場所　吉良川集出荷場、奈半利あいあい広場、旧土佐あき本所青果市場、芸西資材センター

問い合わせ　安芸営農経済センター営農企画課
担当：小松淳　電話：0887-34-8325

出品者の声　当初はビニール袋でオクラを出品していましたが、暑くなるにつれ品質の状態が悪くなりました。とさのさとのアドバイスもあり、ネット袋での出品へ変更しました。とさのさとから色々なアドバイスをいただき感謝しています。同ファームの利用者も売上数を気にするようになり、仕事に対する意識の向上にもつながっています。
（オクラ・こうち絆ファーム）

令和２年度「あきあいあい収穫祭」開催中止について

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、開催を中止とさせていただきます。何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

税務相談日

日時　令和2年10月14日（水）・11月11日（水）
会場　あき支所3階
時間　10：00～16：00
問い合わせ　安芸地区本部　企画組合員課
0887-34-1515